

川越八幡宮に芥川 直木賞初版本

(2011年9月16日 読売新聞)

川越八幡宮 宮司が全冊収集、展示

川越市南通町の川越八幡宮に、芥川賞、直木賞の歴代全受賞作の初版本をそろえた展示室が完成した。榊原茂宮司（75）が集めたもので、初版本はすべてそろっており、帯付きや、作者のサインが入っている貴重な本も多い。榊原宮司は「日本で一番の文学賞の作品を展示することで、文学ファンが川越に足を運んでもらえるきっかけにしたい」と期待している。

川越八幡宮の展示室に並んだ芥川賞の歴代受賞作品（川越市南通町で） 榊原宮司は約30年前に東京・池袋の百貨店で開かれていた古書市で、歴代の芥川賞作品を見たのをきっかけに古書の収集を始めた。

80年近い歴史を誇る両賞の受賞作品の中には、本の入手が難しいものもあったという。朝鮮人生徒と日本人教師の交流を描き、日本の朝鮮支配に疑問を投げかけた、1944年の芥川賞受賞作「登攀(とうはん)」(小尾十三著)を収録した「雑巾(ぞうきん)先生」は、中国東北部(旧満州)にあったものを取り寄せた。

1935年の第1回芥川賞受賞作「蒼氓(そうぼう)」(石川達三著)、第1回直木賞受賞作「鶴八鶴次郎」(川口松太郎著)から、今年度の第145回直木賞受賞作「下町ロケット」(池井戸潤著)など最新の受賞作まで網羅。全収集品の約半数の100冊程度を常時展示しているという。



川越八幡宮の展示室に並んだ芥川賞の歴代受賞作品（川越市南通町で）

芥川・直木賞の初版本展示 川越八幡宮 宮司が収集



ガラスケースの中に展示された芥川賞、直木賞の初版本と
榊原茂宮司＝川越市南通町

文壇の登竜門とされる文学賞の「芥川賞」と「直木賞」を受賞したすべての作品の初版本(単行本)を一堂に集めた展示室が川越市南通町の川越八幡宮にお目見えし、市民の話題になっている。同神社の第15代宮司、榊原茂さん(75)が趣味で収集して保管していた。敷地内の参集殿の建て替えを契機に同建物2階に展示室を新設した。榊原さんは「市民や観光客の皆さんに見てもらえれば」と鑑賞を呼び掛けている。

展示されているのは、2賞がスタートした1935(昭和10)年の初回(芥川賞＝「蒼氓(石川達三)」、直木賞＝「鶴八鶴次郎(川口松太郎)」)から芥川賞は50回の「感傷旅行(田辺聖子)」、直木賞は45回の「雁の寺(水上勉)」まで。同回以降の作品は書庫に保管されている。

このほか、同神社の第9代宮司が江戸時代から明治時代にかけて、取り組んでいた生け花の免状をはじめ教本や門人目録、俳句集、俳句の掛け軸などが約100点も展示されている。

榊原さんが、2賞の初版本の収集を始めたのは約30年前、都内池袋のデパートで、芥川賞と直木賞の単行本が展示されているのを見たのがきっかけ。「これなら自分でも集められる」と、その後は神田の古本屋や古本市を回り、20年間ですべての初版本約300冊を収集した。

榊原さんは「古本街に年間十数回は出掛けて行き、店主と顔なじみになって欲しい本を頼んでおく。それが入ると、向こうから連絡が来るんです。中でも作家の署名入りの本は身内に配るため数が少なく貴重なんです。高いものでは1冊数百万円するものもあります」と話している。